

自民まどか・自民大野城 視察報告書

研修者	天野嘉久孝、田中健一、高山やす子、森和也、中村真一、関井利夫、 山上高昭、井福大昌
日時	平成30年11月13日(火)
場所	衆議院第2議員会館会議室
テーマ	「人口減少社会における働き方」について
対応者 (講師)	厚生労働省保険局国民健康保険課企画法令係 川瀬一平主査 厚生労働省老健局総務課企画法令係 喜久里桂樹主査 厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室 佐藤雅明政策第一係長 ほか10名

概要

人口減少社会における働き方

外国人の受け入れ

1. 人手不足は、生産性向上だけではまかなえない
 - (ア) 専門的労働
 - (イ) 技術的労働
 - (ウ) 戦略特区
2. 外国人 平成29年で526万人(人口の約2%)
3. 日系人 平成29年で50万人
 - (ア) 身分で入ってきたため、期間の制限はない
4. 諸外国の例
 - (イ) ドイツ 難民受け入れによる移民
 - (ウ) 韓国 雇用許可(国と国との協定による受け入れ)
5. デメリット
 - (エ) 日本人労働者との競合
 - ① 賃金単価の監視 高齢者、女性、外国人
 - (オ) 労働力の競合
 - ① 在留資格 留学生は週28時間まで就労可
6. 課題
 - (カ) 生活
 - (キ) 共生社会の実現
 - (ク) 政府による検討会

高齢者雇用

1. 再雇用の促進(H18~)
 - (ア) 過去の実績
 - (イ) 若年労働者との競合

女性活躍

1. 管理職の登用増加傾向、勤続年数伸長傾向

所感

人口減少社会における労働の問題について、政府は、外国人・高齢者・女性・A I活用など多面的に調査研究をしているが、即効性のあるものは未だ見いだせてないようである。大野城市においても外国人を見かける機会が増えており、共生が課題となってくるものと思われる。

—作成者 山上 高昭—